

いずみニュースレター

発行元：社会福祉法人いずみ 東京都東村山市富士見町3-3-4

TEL:042-394-1868 平成30年10月発行 第11号

私の趣味 よさこい

社会福祉法人いずみ評議員 小山 忠勇

3年ほど前から「社会福祉法人 いずみ」で評議員をさせてもらっている小山です。長年、宇宙関係の研究所に勤めており（現在は退職）福祉関係のことには門外漢でした。

こんな私が評議員などやっても良いものかと躊躇いたしましたが、職員のみなさんが一生懸命取り組んでいる姿を見て、少しでもお役にたちたいと想い、お引き受けいたしました。

現在、趣味でよさこいを「ダンスパフォーマンス集団 迫-HAKU-」というチームで行っています。あゆみの会の新年会などで演舞をさせてもらっていることがご縁のきっかけなのかなあ～と思っています。

ここで少しよさこいや私たちのチームについてご紹介させていただきます。

よさこいは今、日本各地で盛んに行われています。とにかくルールが簡単で①手に鳴子を持って踊ること。②高知節やソーラン節の1小節を使うことの2点のみで、楽曲や衣装、踊りのスタイルなどが自由な発想で行えること。その自由さが大きく広まった理由だと思います。

（もちろん社会に迷惑をかけるようなことはNGですが・・・）私たちのチーム「ダンスパフォーマンス集団 迫-HAKU-」は地元の東村山市と小平市を活動拠点に11年前（2008年）に立ち上げました。Y（やるき）H（本気）S（集中）を合い言葉に老いも若きも一緒になって、自分たちが楽しむだけでなく見ていてくださるみなさんに元気と笑顔を届けられるように頑張っています。

大きなよさこい祭り（川崎大師、札幌、原宿、東京など）への参加と地域のお祭り、福祉施設での演舞、災害復興支援のイベントなど幅広く活動しています。（自分で言うのもなんですが・・・どこでも高い評価を得ています）仕事も退職した今、大好きな趣味を仲間と一緒にできる喜びを感じています。機会があればどこにでも行って、演舞をご披露、みなさんと一緒に楽しみたいと思っています。

お気軽にお声かけいただければ幸いです。



大迫力の演舞

東村山生活実習所・あゆみの家合同祭り 平成30年5月27日(日)開催

東村山生活実習所との合同祭りは、今年で11回目となり天候にも恵まれました。昨年に続きパフォーマーの「じっきー」さん、よさこい踊りの「迫」さん、阿波踊りの「久米川連」さん、「アフリカンドラム」の皆さんのパフォーマンス、東村山市のゆるキャラの「ひがっしー」も遊びに来てくれました。その他にも模擬店やゲーム、ビンゴ大会等行いました。

東村山市市長様、市議会議長様もご多用の中お越し下さり、ご挨拶を頂きました。

成人部の利用者もゲームの進行役や模擬店のお金の受け渡し、ビンゴ大会のビンゴカードの配布等、大活躍でした。参加して下さった皆様のおかげでお祭りは大盛り上がりのうちに終了しました。



模擬店で買物



アフリカンドラム演奏



じっきーさんと



幼い頃を思い出させるほうずき。
いずみホール玄関で益々色づいています。

社会福祉法人いずみ主催 あゆみの家改修工事完成記念講演会のご報告

(平成 30 年 6 月 23 日 (土) 13:30~16:00 あゆみの家 1 階成人部フロアー)

テーマ：「個人の尊厳と多様性の尊重について考える」

講師：椎木俊秀先生（東京小児療育病院院長 法人いずみ理事）

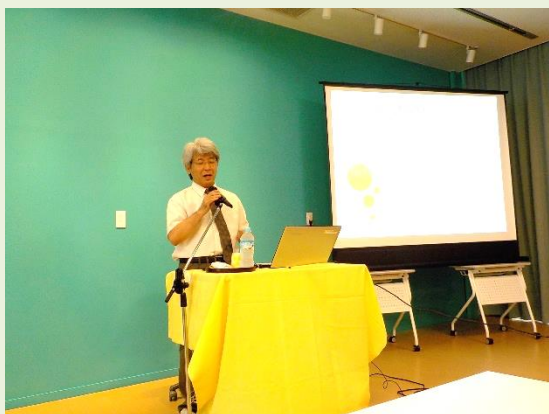
参加者：法人関係者 47 名、外部関係機関及び地域の方 20 名

今回の講演会は、あゆみの家改修工事完成を記念し、あゆみの家 1 階フロアーで開催しました。

講師に東京小児療育病院院長の椎木俊秀先生を迎え、津久井やまゆり園の大量殺人事件、優生思想、優生保護法などの話を例に上げお話ししていただき、障害者に対する差別や偏見などは過去から現在に至る中で変わってきているが、まだまだ障害を持つ方々に対する社会の厳しさがあることについて改めて認識しました。また、講演の途中に行ったアンケート結果では、福祉の仕事をしている職員の中にも、知らないうちに優生思想を持っていることにも気づかされました。

先生は、「障害者の方々との関わりは、こちらが世話をしているのに、こちらが幸せにさせてもらうこともある。こころの生産者であり、価値も能力もあると思う。そのことを、障害者と関わりを持ったことのない方々に伝えることが大切だと思う。障害を持っている方達が生きたいと思う社会を作ることが、社会を良くしていく鍵になると思っている。」と話されていました。

今回の講演会を通して、障害の有る無しに関わらず、世の中にはいろいろな人がいて成り立っていて、みんなが支え合って生きていくこと、個人の尊厳や多様性の尊重を認め合うことが大切であると感じました。障害者と関わりをもったことのない人たちにも、福祉の仕事の良さや魅力を伝えていき、より良い社会を作ることにつなげられたらいいと思いました。



講演中の椎木先生



(担当 あゆみの家成人部 千葉 英之)

硝子戸の向こう

連載企画 第11回
理事長 福岡 憲二

社会福祉法人の社会福祉充実計画の今後の課題

社会福祉法人は、平成29年度以降、毎年度、その保有する財産について、事業継続に必要な財産を控除したうえ、再投下可能な財産（社会福祉充実残額）を算定しなければならない事になりました。その結果、社会福祉充実残額がプラスになれば、その年以降5年以内に、地域の福祉ニーズ等を踏まえつつ、その残額を計画的かつ有効に再投下していく必要があるとしています。

再投下の対象は、既存の社会福祉事業もしくは公益事業の充実又は新規事業や新規公益事業の実施であること。又、計画の実施期間の5年の間に当該残額を使い切らなければならない事になりました。

具体的には、社会福祉法人に蓄積される収益（社会福祉法人会計では、次期繰越事業活動収支差額）から、将来的にも事業が継続される為に必要な金額（活用中の不動産、建替え、大規模修繕、設備、車両の更新の際の自己資金、必要な運転資金）を差し引いた残りを「充実残額」と呼び、これを5年以内に自ら計画した事業に使い切るべしと。

これは、社会福祉法人が多額の内部留保をため込んでいるのではないかという、いわゆる内部留保問題を受けて導入された制度であり、平成28年度決算時に初めて算定がおこなわれましたが、実際には、多くの社会福祉法人が充実残額なしとの結果となった由（法人いずみも同様であった。）で、これまで指摘されてきた内部留保問題に一つの答えを、出すものであったと評されています。（厚生労働省調査：社会福祉法人の社会福祉充実残額は、平成28会計年度基準年度として、調査法人の12%がプラス、残り88%がマイナスで、内部留保はおろか再生産に必要な財産すら社会福祉法人は有していないと解釈できる状態だと分析）

しかし、今後とも当法人も含め、社会福祉法人の「内部留保の明確化」と「適正・公正な支出管理」を合わせて、高い公益性と非営利性を維持できる財務規律の確立は、是非とも求められるところです。

法人いずみは、平成23年度以来、3年周期の中期経営計画を毎年策定してきていますが、今後は、新たに充実計画を加え、その策定を中期経営計画の中核的な経営課題とすべきだろうと思われます。

一般の企業では、会社法の下で、剰余金は将来の事業投資の原資の他、株主への配当金や役員報酬に回されてきました。然し近年、企業の社会的な影響力が大きくなり、CSR（企業の社会責任）やSDGs（持続可能な開発目標）などを背景として、地域社会を含むステークホルダー（広義の利害関係者）に対する責任を果たすことが求められており、剰余金の振

り向け先として、これらステークホルダーに対する経済責任以外の社会的責任の、担保費用としてあてられるようになってきていますが、強制的なものではありません。

社会福祉法人の収入の源泉は、一定の福祉サービスに対する一定の国費による介護給付費などでありますので、基本的には事業活動収支差額の最大化は法人概念にはありません。又、その充実残額の使途は、自ずと、限定的ですが、社会福祉法人の基本的な使命は、地域の社会福祉に責任を持ち、そのうえで、利用者向け福祉サービスの最大化にあります。

その行動本能は、種類の異なった福祉サービスを組み合わせたり、支援技術をさらに充実させていたり、魅力あるサービスを工夫したり、創出したり、活動現場の環境を改善したり、サービス利用者に対する支援をさらにきめ細かく、又個別化を図るなど施設側が努力して、全体としてサービスの付加価値を向上させることにあります。

その結果、利用者に歓迎され、利用者の定着、出席率の向上が実現され、収入の最大化は無理としても、それなりに次期繰越事業活動収支差額が増加するだろうと思われます。又その努力は、職場に良い緊張感を呼び、職員の士気向上に繋がり、ひいては利用者に対する支援の量的、質的レベルアップになって、社会福祉サービス全体のプラスのスパイラルとなります。

我々、社会福祉関係者は、このようなプラスのスパイラルは望ましいところですが、社会福祉充実計画策定の仕組みには何か強制的で、少し違和感が残ります。今後、この仕組みが健全な社会福祉法人経営のブレーキにならない様、関係者に制度のさらなる運用の改善をお願いしたいものです。

因みに、常に先駆的な経営戦略を打ち出す会社として知られる花王（株）が“応援される企業”を目指して、持続可能な社会づくりに貢献できる様、従来の財務重視から非財務の取組みに傾斜して、社内にESG部門を設置したと。（E環境、S社会、G企業統治。朝日新聞8月30日朝刊、7面）会社独自で企画し、花王の長期的な成長を目指すのだそうです。

将来、我々社会福祉法人も、この度の財務管理中心の、強制的な充実計画を乗り越え“応援される法人”であり、且つ持続可能な地域社会づくりに貢献できるような、自由で、独自の、非財務的要素の入った、社会福祉充実計画を策定していきたいものです。

平成30年9月5日 憲爺



苗木から丹精に育てて3年
ライフサポートつばさの庭に立派な房をつけました。
植木職員Sさんの作品です。



これもSさんの作品
ライフサポートつばさの利用者さんとの合作
今年の収穫は殊の外、豊作だったようです。

いずみホール 1 階地域開放の利用状況

いずみホールの 1 階を地域の各種団体への開放を今年度より行っております。開放できる時間は事業運営時間外、主に土日と平日夕方以降になります。地域の自治会やサークル活動など、事前登録いただいた団体の方に、戸締り、清掃等を自己管理していただくことで無料開放致しております。現在富士見町自治会の青城会様が会合等で月 1 回程度のご利用や、ふじみ町福祉施設連絡会の会議場でのご利用がありました。（下記写真）

今後もこのような取り組みを通して、地域の中の法人いずみとしてより良きご近所付き合いができるように努めていきたいと思っております。

いずみホール 1 階 広さ面積 100㎡ テーブル・イス有り

所在地：富士見町 3-3-4

＊利用申込み、お問合せ等は下記までお問い合わせください。

社会福祉法人いずみ 管理本部 042-394-1868



いずみホール外観



利用の様子（ふじみ町福祉施設連絡会）

助成金を頂きました。

平成 30 年度 赤い羽根共同募金配分

- ・あゆみの家成人部 ホットパック整備
- ・ライフサポートつばさ トイレ手洗いへ
自動水洗金具・電気温水器設置等
- ・ひまわり サチュレーションモニター

自動水洗で温水が使えるようになり
利便性が大変向上
しました。
ありがとうございました。



ヤマザキ製パン株式会社 様より
ご寄附いただきました。（平成 30 年 9 月）

ひまわり、あゆみの家幼児部の
各運動会へ、パンを 230 個のご寄附を
頂きました。ありがとうございました。



つばさ祭り開催いたします

開催日時 平成30年10月21日(日) 10:30~14:30
会 場 ライフサポートつばさ、(都立東村山西高等学校前)
東村山市富士見町3-4-16
駐車場あり(都立東村山西高等学校)
内 容 模擬店(焼きそば、たこ焼き、焼き鳥等)
ステージ企画(東村山西高等学校ダンス部・箏曲部出演、他)
ビンゴ大会、製品販売(革細工など)

毎年秋開催のつばさ祭り、前回は開催日が台風襲来と重なり計画通りに行えませんでした。今年こそは秋空の元、開催を願い、現在準備を進めています。

つばさ祭りは、隣接する都立東村山西高等学校のダンス部のステージ出演など、ご協力いただいている沢山の方々とライフサポートつばさ利用者が一緒になって祭りを楽しむ催しです。模擬店も多数出店します。地域の方、一般の方、どなたでもご参加OKです。皆様のご来場お待ちしております。



過去開催時の東村山西高ダンス部



つばさ祭り準備作業中

つばさ祭り

10月21日(日)
10:30~14:30

内容
・模擬店
(焼きそば、たこ焼き、焼き鳥等)
・出し物・ビンゴ大会
・製品販売等

場所
ライフサポートつばさ
東村山市富士見町3-4-16
(都立東村山西高等学校前)

問い合わせ
042-384-1761

その他
・駐車場あり
(都立東村山西高等学校)



今後の予定②

第5回 いずみコンサート 開催のお知らせ

開催日時 平成30年11月10日(土)

開場13時15分 開演14時 入場無料

出演 **サックスとピアノのロマンティックサウンド**

「デュオ ルクレール」

松本ひろ実(サックス)、松本修一(ピアノ)

会場 東村山市中央公民館4階 レクリエーションルーム

例年の会場とは異なります。ご注意願います。

東村山駅より徒歩5分

会場に駐車場はございません、近隣民間駐車場をご利用ください

申し込先 パソコン <http://www.hm-izumi.org/archives/1624>

スマートフォン 右記 QRコード

お電話 042-394-1761(ライフサポートつばさ)

後援 東村山市 主催 社会福祉法人いずみ



申し込み先 QRコード

🎵 いずみコンサートとは 🎵

直接演奏者から伝わる音の響きを五感で感じ、楽しめる機会の提供を目指して、音楽療法士の上田道子さんにご協力いただき毎年1回開催。今年で5回目になります。いずみコンサートの前身「スマイル」コンサートから数えると今回で13回になります。

各事業所の利用者やご家族、地域の方々が共につどい、楽しめるコンサートを目指しています。

小さなお子さん、車椅子の方どんな方でもご来場OKです。出演者の方と一緒に楽器を鳴らしたりする曲目もご用意しています。また今回は事業所職員がギター、ベース共演する曲目も予定しています。是非コンサートにお越しください。ご来場お待ちしております。



過去開催時のいずみコンサートの様子



～編集後記～

昨年度に事業所建物の新築や改装それに伴う組織改編などを行いました。10月になり半年が過ぎ、広さや機能が増えたことで様々な空間の利用の仕方や可能性が増えた実感しています。10月21つばさ祭り、なぜか雨になることが多いつばさ祭り、今年は晴れになりますように！皆様のご来場をお待ちしております。

あゆみの家幼児部 梶沼 知徳